

所属・資格 総合文化研究室・助教

申請者氏名 李 婷

研究課題		メタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知力の向上に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	申請者はこれまでの研究を通して、メタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知力の向上を結び付けるための理論的枠組み(以下、「枠組み」)を構築した。研究目的は、当該枠組みの日本語教育における有効性について、教育実践により検証することである。そのために、まず、これまでの研究で分析したメタ言語表現の用例を活かして、「枠組み」に対する学習者の気づきが促されるような教材を開発し、コミュニケーションのメタ認知が可視化できるような教室活動をデザインする。それから、教育実践を通して、学習者がメタ言語表現をどのように学習しているのか、その学習を通して、コミュニケーションのメタ認知が促進されたかどうか、促進された場合、コミュニケーションの何に関するメタ認知がどのように促進されたのかを記述・分析する。最後に、教育実践を踏まえた上で、「枠組み」の有効性について検討し、必要に応じてさらに修正を加えていく。教育実践によって検証された形で「枠組み」を日本語教育に提供することが本研究の意義である。
	研究の結果	①待遇コミュニケーション教育の一環として、「行動展開表現」を中心に、1学期15回の授業で使用する教材(スライド、視聴覚コンテンツ、配布資料、コメントシート等)を作成し、授業実施後も改善と修正を重ねた。②一連の教室活動(動画の視聴→スクリプトの穴埋め→「行動展開表現」における「行動」「決定権」「利益」の確認→「表現意図」の確認→「表現意図」の実現に役立つ日本語表現→グループで作った台本の発表)をデザインし、1学期の教育実践を行なった。③コメントシートやレポート、グループで作成した台本など学習成果物を収集し、メタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知について分析考察を行った。
	研究の考察・反省	①待遇コミュニケーション教育、特に「宣言」「依頼」「誘い」「指示・命令」のような「行動展開表現」への意識化、及びメタ言語表現への意識化における教材の有効性が教育実践で検証できた。また、学習者のレベルによって難易度が調整でき、多様な教育現場に対応できるようになっている。ただ、視聴覚教材の編集が授業に追いつかず、よりスムーズなスタートと切り替えは改善すべき課題となっている。②ことばのインプットから始め、理論的な分析を経て、グループによるアウトプットという学習過程において、学習者は無理なく待遇コミュニケーションの理論を理解し、メタ言語表現を学び、そして、習った理論とメタ言語表現を活かしながら仲間と共に創造していくのが観察された。ただ、授業がパターン化されてしまい、学期の後半になるとマンネリ化が見られ、教室活動デザインのバリエーションに欠けることが反省点となる。③学習成果物から、待遇コミュニケーション論、メタ言語表現とコミュニケーションのメタ認知への気づきがある程度見られている。ただ、学習の過程については分析できず、学習成果物のみを分析材料とすることの限界があるといえよう。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 なし *本研究の投稿先として『待遇コミュニケーション研究』が最も適切だと思われる。しかし、2018年9月締め切りの時点で、分析がまだ終わっていないということもあり、他の原稿「人間関係」「場」「意識」「内容」「形式」に言及するメタ言語表現から読み取れる表現主体の待遇意識(2019年2月発行)を投稿したため、本研究の投稿を見送ることにした。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	